

これからの学校教育を進めるための小中学校のあり方について

令和 5 年 3 月
上市町教育委員会

上市町教育委員会では、子どもたちにこれからの時代に向けて必要とされる人間力と社会性を培うため、主体的で対話的な学びを進め、お互いを尊重し、共に活動していく教育環境を整備することを目的に、小中学校のあり方について検討を進めてきました。

この結果、次の 3 点を主眼とする提案を行うものです。

- 1 教育内容や方法に制約が生じる複式学級を解消する。
- 2 9 年間を通して、一体的、系統的な教育を実施する。
- 3 GIGA スクールやインクルーシブ教育など、柔軟で創造的な新しい時代の学びを実現するための学校施設を整備する。

[提案]

町内小中学校を義務教育学校 1 校に統合する。

[移行パターン 3 案]

- 1 最短での校舎建設が見込める令和 10 年度開校を目途に校舎を建設、一度で再編・統廃合を完了する。[本案を教育委員会としての基本案とする。]
- 2 令和 8 年度に第 1 次統合（上市中央・白萩西部・陽南）を実施し、1 学級の児童数が 10 名を下回る学級が複数となることが予想される令和 12 年度開校を目途に校舎を建設、この時点で義務教育学校として再編・統廃合を完了する。
- 3 令和 8 年度に上市中央小学校を廃校とし、通学区域を他 5 小学校に分散（分散により 1 学級の児童数を 20 名程度に維持）、中学校校舎が建設から 60 年経過となる令和 15 年度開校を目途に校舎を建設、この時点で義務教育学校として再編・統廃合を完了する。

[義務教育学校 1 校のみとする理由]

上市町は既に中学校は 1 校となっています。小中一体的、系統的な教育を目指すには、教員組織も一体となる義務教育学校が、後年、1 学年 3 学級程度となる学級数、それに伴う教員配置数からも適切と考えます。また義務教育学校の他に小学校を残した場合、中学校進学時に小学校から編入する生徒がいわゆる「中 1 ギャップ」を強く感じるなどの問題が生じません。

加えて、校舎建設にあたっては地域住民の利用を考えた複合型施設が望ましく、財源を集中的に投入できることから校舎建設は 1 校のみと考えます。